

## 令和5年度 第2回 宇治市子ども・子育て会議 会議録

<日 時> 令和6年2月5日(月) 14:00~15:40

<場 所> 宇治市産業会館 多目的ホール

<出席者> (委員:18人出席/24人中)

安藤会長、足立委員、岩崎委員、笠原委員、工藤委員、熊澤委員、出張委員、富安委員、池田委員、上西委員、大森幹久委員、岸委員、木本委員、前畑委員、杉本委員、松井明恵委員、大森弘子委員、松井敏子委員

(事務局:18人)

教育部 福井教育部長、上道教育部副部長、林口教育支援センター長、吉田学校管理課長、岡野学校教育課長、大槻学校改革推進課担当課長、堀江教育支援課長

福祉こども部 波戸瀬福祉こども部長、柏木福祉こども部副部長、河田地域福祉課長、畑生活支援課長、富治林障害福祉課長、川崎こども福祉課長、松井保育支援課長、栗田保健推進課長、鶴谷保育支援課副課長、久保こども福祉課子育て企画係長、加藤こども福祉課子育て企画係主任

(傍聴者) 1人

### <会議内容>

#### 1 開会

- ・事務局より、「宇治市子ども・子育て会議の会議の公開に関する要項」に基づいて、公開で会議を進めていくことを確認。

#### 2 委嘱状交付

- ・松村市長より委嘱状交付

#### 3 市長挨拶

- ・松村市長より挨拶

#### 4 委員紹介

- ・配布資料の確認
- ・委員紹介
- ・事務局紹介

#### 「宇治市子ども・子育て会議」について

- ・事務局より、資料2「宇治市子ども・子育て会議」に基づき説明が行われた。

#### 会議の公開について

- ・事務局より、資料3「宇治市子ども・子育て会議の会議の公開に関する要項」に基づき説明が行われた。

## 5 会長・副会長選任

・委員の互選により、会長に安藤委員、副会長に迫委員が選出された。

## 6 議題

### (1) こども大綱について

・事務局より、資料4「こども大綱説明資料《抜粋》」に基づき、説明が行われた。

【委員】こども大綱は非常に重要ですが、公表されるのがとても遅いと感じています。この危機的な状況を何とかしようとする真摯な態度や姿勢がこれから求められると思います。そして、これから行うアンケート調査結果は、計画にグラフやチャートを入れる等の工夫を行い、こどもまんなか社会に向かっている実感を持てるような内容にしていきたいです。また、京都府においては、子育て環境日本一推進戦略が、12月に改定されました。この戦略の素晴らしいところは、子育て環境日本一が子どもや子育て世帯の親にとってどういう社会なのかの問いかけがされているところです。就学前の幼稚園、こども園、保育所に通う子どもの声については、子どもの言葉が十分ではないからこそ、振る舞いや行動等の非言語的なコミュニケーションから吸い上げることに注力していこうと思います。

【事務局】国の方でこども大綱、そして京都府の方で戦略の改定が順次なされたというところでございます。子どもの声をどの様な方法でいかに吸い上げていくのは非常に大きな課題であると考えております。ニーズ調査でも、今回新たに子どもへ「こんな宇治市になればいい」といった意見・アイデアを求めますが、それだけでは十分ではないと思っております。また、様々な自治体で、子どもの声を吸い上げる取り組みもされていますので、研究を行い、宇治市としてどのように子どもの声をこれからの計画に反映させていくのか、検討させていただきたいと思っております。

### (2) 「第3期宇治市子ども・子育て支援事業計画」及び「第2期宇治市子どもの貧困対策推進計画」の策定にかかるニーズ調査について

・事務局より、資料5「次期計画策定にかかるニーズ調査の実施について」(調査票【協議資料】)、(調査票【案】)に基づき、説明が行われた。

【委員】資料59頁、子どものアンケート問32「こんな宇治市になればいい」と思ったことを子どもたちに書いてもらうのはすごくいいと思いますが、この質問だと、子どもたちは当事者として考えるのではなく他人事で考えようだと思いました。例えば、こんな宇治市に住んでみたい等、子どもが当事者意識を持って考えられるような質問がいいと思いました。

【委員】統計的にこの調査を続けていること自体が素晴らしいことだと思っています。その中で削除する質問項目については、親の主観に左右されかねない質問を削除し、実態を把握しようとしているという姿勢がわかりました。資料8頁就学前児童の保護者用アンケート問30「お子さんと外出する際に困ったこと」について、「交通機関や建物がベビーカーでの移動に配慮されていない」を回答者が選択できるようになっていますが、0歳児のみを想定しているように思いました。アンケートは就学前児童ですので、0歳10ヶ月ぐらいからは自転車に乗っている親御さんも結構多いです。そのため、「ベビーカーや自転車での移動に…」等に文言を変更するのはどうでしょうか。そうすることで、今後自転車専用道路の検討等のインフラ整備の必要性に繋がっていくのではと思います。そして、就労形態に関する質問について、フルタイムの定義が週5日以上、1日8時

間以上となっています。現在、私は時短勤務をしており週5日、1日7時間で働いています。私がアンケートに答えるという前提で見たときに、フルタイムで働いていると回答していいか迷いました。働き方が多様になっていますので、府や国の調査票に合わせる必要もあると思いますが、実態として週50時間以上働いているのか、少し就労時間を抑えて働いているのかで、見えてくるものが違うと思います。例えば、女性ばかりが時短勤務を取っている等、データで見えてきた時に、別の施策に繋がることもあると思いますので、時短勤務等を項目に追加してはどうかと思いました。一方で、男性の育休の取得割合を尋ねられている項目はいいと思いましたし、制度が充実してきたと思いました。また、私独自で調べたデータによると、お子さんが2人いる世帯が日本では50%超、一人っ子が約20%、3人以上のお子さんがある家庭は約18%です。私は第三子の出産予定がありますので、自身がマイノリティになることに愕然としました。子どもの数が増えることで少子化対策としてはいいことかもしれませんが、実態としては、自転車に子どもを乗せられないから保育園もどうしようとか、家をどうしよう等、実感としては大変だと思っています。双子等の多胎児のご家庭等もマイノリティに分類されますので、大変さを知ってもらえるような項目があれば、政策にも反映できると感じました。

**【事務局】**子どものアンケートの聞き取りの仕方、当事者感が出て、そして前向きに受けとめられるような内容をという貴重なご意見ありがとうございます。そして、就学前児童の保護者用アンケート問30の0歳児であっても、自転車に乗せたいようなところもあると思いますので、検討させていただきたいです。資料9頁就学前児童の保護者用アンケート問35フルタイムの定義については、印一番下のところで、1日、8時間以上、週に5日以上としております。こちらは、国の調査基準となっており、これに基づいて量の見込みを算出する予定です。問35-1のところ、実際の1週当たり何日の勤務で、1日当たり何時間勤務をされているかは、別立てでご記入をいただくというような仕組みになっております。今後、分析の際には、いただいたご意見をもとに、検証させていただきまします。第3子以降のお子さんのいるご家庭等の少数派（マイノリティ）の方に配慮した質問をというご意見もいただきましたが、全体的な調査表といたしまして、お子さんの人数ですとか、皆さんにアンケート調査でお聞きした上で、困りごとや、困り感を感じてないか等を集計の際、どの様な傾向があるのかを分析してまいりたいと考えております。

**【委員】**今、自分が子育てしていて、楽しい気持ちやこういうことができたらいいなと思うことは多くありますが、アンケートに答えてみた際に、何か子育てしていたらだめなのかというマイナスイメージを感じてしまいました。しかし、ニーズ調査はこういうことが足りていない等の実態把握を行うものなので、仕方ないと思いつつも、少し暗いと感じました。何か明るい未来が見えるようなアンケート調査の質問があればと思いました。2つ目が、回収率が少ないので質問を減らすとのことでしたが、ネットでの回答ができたならより良いのではと思いました。3つ目は多胎児のご家庭について、私自身も双子がおり、割と身の回りに多いと感じています。何か相談したいときに、宇治市内では福祉会館でお話し会が数カ月に1回あります。しかし、困ることはたくさんあるので、他市のサークル等へ行くのですが、宇治市のおはなし会で参加している家庭と同じ方がおられますので、宇治市で多胎児の相談できる場がないとすごく感じています。足りていない支援について、ニーズを引き出せるようなものがアンケート項目にあればと思いました。最後に、子どものアイデアについて、どのようにアンケートで聞いているか見たときに、質問が抽象的だと思いました。そのため、もう少しわかりやすく、答えやすい質問に修正してほしいと思いました。

**【事務局】**まず、ニーズ調査ですが、支援が行き届いていない場所はどこかを見つけ、分析する目的もありま

す。アンケートを行うことによって、子育てにマイナスイメージを抱いてしまうのは意図しているところではありませんが、子育ての楽しさ等をお聞きできるような内容にできないかを事務局で検討していきたいと思っております。そして、郵送での回答方法について、過去のニーズ調査においてもご意見をいただいているところではあります。質問数が多いことからネットでの回答については難しい部分もあると考えています。そのため、無作為抽出した保護者等を対象に郵送での調査を実施することとしています。ニーズ調査の実施手法については、子ども・子育て支援事業計画以外でも、市民の皆様からご意見をいただいているところではありますので、今後の検討課題とさせていただきます。そして、双子等の多子家庭への聞き取り項目については、事務局の方で検討させていただきます。

【委員】平成30年度ニーズ調査を実施された際、私の家庭に届きましたが、主人が勝手に回答したことにとっても怒った記憶があります。私自身はこの様なアンケートが来た場合、必ず答えるようにしているので、回答率の低さに驚きました。また、無作為抽出による郵送でのアンケート実施については、残念に思います。学校の出欠連絡等もオンラインで行われているので、オンラインの方が回答率は高くなるのではと思いました。そして、ニーズ調査では、2点程気になったことがあります。まず、就学前児童の保護者へのアンケート問26と27「地域での催し物の参加」ですが、私は家族の仕事の都合で宇治市に住んでいるため、地域との繋がりという視点がなかったので、質問を見た際に驚きました。特に就学前のお子さんについては、保育園や幼稚園に通うと、地域の繋がりが希薄になってしまうと思うのですが、だからこそ幼稚園や保育園以外のサークルやイベントが大事になってくると思いました。もう一つは、子どものアンケート問24「どんな友達がいますか」の選択欄6「インターネットの友達」は、今時だと思いました。もし私が小学校3年生から高校生3年生までの子どもの視点でアンケートに回答するとなった場合、顔が見えないネット環境でしか意見を言ったり、繋がりを持てない子もいると思いますので、この様な子ども達の意見をできれば直接聞くなどして吸い上げていただけたらと思います。

【委員】調査について、ネガティブな感じがしてしまうとの意見について、「 ではない」と言うよりは、「 した方がいい」と言い方を変えるだけで全体的にポジティブな印象になると思います。子どものアンケートについて、子どもに将来を問う質問がありますが、まず今はどうなのかを問い、未来に関する質問に繋げていければと思います。

【委員】まず、他の委員も言っていたように、子育て全般は楽しいものと私も思っていますので、調査票内や表紙のどこかで子育てが楽しい・楽しくないというような項目を聞くことで、保護者も回答しやすいのではないかと思います。クロス集計を行う際、どの項目を組み合わせる課題等を見つけていくのかは、ニーズ調査後の課題だと思いました。そして、アンケートに回答しない方に真のニーズがあると感じておりますので、量的な分析だけではなく、現場の職員等と連携し、聞き取り等を行いながら質的な分析も行えたら宇治市独自の意見や課題が見えてくると思いました。

【委員】インターネットによる調査の場合、操作や時間の関係でアンケートの項目に全て答えられない可能性もあると思います。また、操作途中で保存ができる等の配慮が必要かと思っております。5ページの就学前児童の保護者アンケート内で削除された項目がいくつかありました。問21-4については、前回の調査の結果「わからない」が50%を超えたことから削除の対象になった質問ですが、こども大綱で子どもらしい生活のリズムについて触れていることから、子どもが大切にされている事が分かるひとつの要素だと思っておりますので、削除するべきではないと思います。特に中高生になると、規則正しいり

ズムで生活できることは進路にも関わってくるので、大事な質問だと思いました。また、11 頁問 36 から「定期的な教育・保育」などを利用していますかと聞いていますが、問 36-5 満足している点や要望があればお答えください(自由記述)が削除されています。しかし、とても満足している場所はどこか、改善できる点は何か等の意見を聞くことができれば、他の施策等の改善等で活用できると思いました。そして、問 37-1 教育保育施設の場所を選んだ理由についての質問についても削除されていますが、この質問の意図するところは実際に満足している場所やその場所に足りないものは何かを保護者から聞き取るものだと思いますので削除するべきではないかと思えます。アンケートが届いた際、こちらが想定している程答えてはくれない可能性はありますが、アンケートを基に子ども達が意見を交わす場合もあると思えます。そのため、学校等からも調査票が届いた際には回答するような協力をお願いできればと思います。

【委員】子どものアンケートについて、いじめられたり、親に知られたくない回答もあると思えます。回答したら何をしてもらえるのが、子ども達にわかれば回答してもらえやすくなるのではないかと思います。

【事務局】本日いただいた多くのご意見を参考に事務局で再度検討を行います。また、宇治市の現状をわかりやすく理解していただくための整理を行い、市民がイメージしやすい計画を作成していく必要があると改めて認識いたしました。特に児童虐待やヤングケアラー等、困っている子どもの支援については、各家庭の状況に応じた支援が必要と考えております。地域、市、教育の現場等、様々な機関と連携して、困っている子どもを救うために取り組んでまいります。

【会長】多くのご意見ができましたので、事務局の方でしっかりと受け止めていただければと思います。

### (3) その他報告事項

【事務局】委員の皆様、本日は多くのご意見いただき、ありがとうございました。会議においてすべての質問にお答えできてない部分もありますが、いただきました意見につきましては、今後のニーズ調査を行う上で検討させていただきます。本日は、次期計画策定を受けての初めての検討会議となりました。ご説明させていただきましたように、こども基本法を基にこども大綱が示され、こどもまんなか社会の構築に向けて、国においても大きな転換期を迎えている中での次期計画の策定となります。本市といたしましても、国や京都府の動向を注視しつつ、委員の皆様とも情報を共有しながら、今後検討を進めてまいりたいと思えます。これから約1年間、現計画の進捗状況評価と並行して、新たな計画策定に向けた検討をしていただくこととなります。委員の皆様には大変ご苦労お掛けいたしますが、今後ともお力をいただきますようお願いいたします。閉会にあたってのごあいさつとさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

閉会